

戦略グループ会議 報告書

<p><戦略グループ会議の名称> ちば生物多様性戦略会議での解決方法</p>	<p><参加人数></p>
<p><主催グループ名> 合成洗剤類を 1/10 に減らす会改め「千葉の水をきれいにする会」</p>	<p><代表者名> 秀島 徹哉</p>
<p><実行委員名></p>	<p><共催（協力）団体名></p>
<p><開催日時></p>	<p><開催場所></p>

会として戦略会議を開くのは難しく、数多くの戦略会議に出席、環境コンサルタントとしての知識内での解決方法を考え提案してみたいと思います。

1 1. 化学物質と生物多様性

I. シックビル（ハウス）症候群

高気密性・高断熱の建物内での有害化学物質による健康障害で、特に妊婦・子供への影響が考えられている。

2つの解決方法

- ①室内の有害化学物質を分解出来る好気性微生物が有りこれを用いて分解してしまう。
 - ②家中イオン化された水を使う事により風呂場はもちろん家中イオンコートされ「カビ」が無くなり従ってカビを食料にしている「ゴキブリ」が住めなくなるので、ゴキブリ用猛毒な「煙霧剤」不要になる。
化学物質過敏症には化学物質そのものの薬品では治らないので、体内から排出するしかない。
- II. 体内の有害化学物質は、2つの方法で排出して健康になる事が出来る。
- ① イオン化された水を飲料と入浴に使用「入浴」により汗として体外に排出する。
イオン化された生きた水は、ものを溶かす力があり体脂肪を溶かし体脂肪と有害物質&コレステロールをも一緒に排出して、血管が柔らかくなり血流が良くなるので免疫力が高まり健康になる。
 - ② 活性炭（薬用炭）製剤による体内有害物質を吸着排出させる。
小腸壁に有害物質貯まり繊毛の力が無くなり体調が悪くなると言われています。

戦略グループ

2. 里海と漁業と私物多様性

3. 農林業と生物多様性

4. 同上

1 5. 山・川・海の生物多様性

皆様ご存じの様に山林の腐葉土類を微生物が、分解しそれらを餌に植物プランクトンが、川へ流れ動物プランクトンが食べ魚の餌になります。しかし田畑で使用する「殺菌剤」「除草剤」「農薬類」「化学肥料」等が、それらを殺してしまいます。

そして家庭から出る「生活雑排水」の洗剤類・塩素・等も同じく殺してしまいます。

そして一番に水を汚す元凶は「リン」です。合成洗剤に含まれる「リン」は、9%迄は、「無リン」と表示しても良いことになっていますが、実際には14%も含有されています。

（エコロジー・カレッジ、故・中川允工学博士講義で）

それらを抑えおにけどうしから自いのでしうかっ

好気性微生物520種を「パーライト」等の「軽石の微粉末」に住まわせている粉剤があります。

これを完全に腐敗・成熟した堆肥（枯れ草・枯葉・農作物残渣・藁・その他の有機肥料）

及び畜産糞尿1トンに対し1リットルのこの粉剤を充分混合し、3～7日間放置・熟成させる。

1日に1回程混ぜ合わせ、出来上がったバイオ肥料に同じ堆肥及び糞尿1トンを加え同じように混ぜながら熟成、これを繰り返し5トンのバイオ肥料が出来上がり、田・畑の面積330平方メートル当たり1トンを表土を掘り起こしながら土と混ぜ合わせ使用する。

（何故、好気性微生物520種かという、その土地に一番適した微生物が活躍するのです。）

その効果

1. 土壌の活性化
2. 生態系の再生
3. 有機物の分解と無機物肥料への転換（窒素系）
4. 植物等の毛根より入り込み毛細管内の掃除を行い栄養分と水分の吸収力を倍増させ、根の活性化及び植物の成長を促進する。
5. 収量の増加（20～30%up）

農薬・化学肥料使用の畑は、柔らかいのは、地表30cm位で、その下は固く、このバイオ肥料を使用すると1m位柔らかくなり「ミミズ」が多く生息する様になるとの事です。

※JA 富里市の会議では、鋤込みまでして貰えたら有機栽培も広がる可能性があるとの事

※現在有機栽培農業は規模が小さく、大規模に展開して行くには、バイオ肥料の製造及び鋤込みの部分に障害者団体をお願いすればどうか？と考えてみました、障害者雇用にもお役に立つのでは？

※畜産業では、糞尿の処分に困っているとの事で、畜産業・農業団体・障害者団体で協力すれば、大規模有機栽培→外国に輸出も可能なのではないのでしょうか？

Ⅱ. 家庭からでる排水の洗剤類を1/10に減らす方法&経済効果

※イオン活水器を使用する事により洗剤類が減らせます。

1. 洗濯関係 洗濯洗剤1/5～1/10にへらせ、柔軟剤が不要に
2. 台所関係 野菜洗い洗剤不要（イオン化された水の為、食材に含まれる残留農薬・残留化学肥料他不要ミネラルが、排出される為、有害化学物質が、体内に入らない）シンクのヌメリが無くなりいつもピカピカに・排水管が詰まらないので、悪臭が無く排水管清掃剤&ヌメリ取り洗剤不要で手が荒れなくなり手袋不要に
3. 風呂場関係 カビが生えなくなり「カビ取り洗剤」不要に・汚れが付きにくいので風呂用洗剤不要に・シャンプーの使用量が減らせ、リンス不要に
お湯が温泉のように柔らかなお湯になり身体が良く温まるので、入浴剤不要に
4. トイレも汚れが付きにくくなり汚れ防止剤が不要に
5. 洗車4回目位からイオンコートされ洗剤及びワックス不要に
6. 室内もイオンコートされ餌のカビが生えなくなるので「ゴキブリ」が住めなくなり「粘着シート」及び「煙霧剤」等の殺虫剤不要に
7. 湯垢・水垢が付きにくいので、給水管・排水管・給湯器・ボイラー等の熱交換機の寿命が長くなる。
8. 飲食業・給食センター・食品加工業等「グリストラップ」を必要とする業種では、エマルジョン化せず清掃が容易になり、清掃費が、少なくなり経済効果抜群に、

③家族全員健康になる（生活習慣病予防学術委員会認定）

人間も生物多様性の一員であり、その人間が健康にならなければ、意味が無いと思います。

人間が健康になるので体重の少ない「ペット」「家畜「鶏」も元気になります（免疫力が高まり鳥インフルエンザになりにくくなります）ペットはもちろん、家畜・鶏の毛がふさふさきれいになり、悪臭がなくなります。

※10軒に1軒普及にすれば、水環境は100年前に戻るとも言われています。

※飲料水の水源にもなっている川・湖・沼がキレイになれば、浄水場のエネルギーも節減出来 CO2 の節減にもなるし、下水最終処理場も同じくです。

※川・湖・沼等は、微生物・菌類で浄化する方法も有ります。

先出の好気性微生物520種の粉剤を木綿の袋に入れ、ひもで結んで適量を川・湖・池・沼・海・に重しを付けて設置して浄化します。海水でも使用できるのが特徴です。流れの無い「湖・池・沼」では、エアレーターが必要です。

この方法の欠点はコスト高です。「EM菌」の場合「嫌気性微生物」の為に取り扱いが難しい難点があります。

※ 海洋深層水から取り出した「重炭酸ナトリウム」から製造した「完全無公害洗剤」も有りますが、洗濯洗剤として使用する場合、合成洗剤を使い慣れた方には「蛍光染料」が入っていないため「真っ白」にならないので、納得頂けない様です。しかし、排水の二次処理を必要としない為「航空機」等を洗うのに最適なので、実際にジャンボ機等の旅客機には使用されているとの事です。

従って漁船等の船舶を洗うのには海洋汚染も無く最適だと思います。

この無公害洗剤の排水は、河川や海に流れて微生物の餌になり、プランクトンを増やす事にも繋がり魚類が増える可能性も有り、海から来て海に帰る理想的な洗剤と言われています。

食器を通して口に入る台所用合成洗剤の残留は、80%と言われています。

台所洗剤だけでも、この無公害洗剤を使えば、安心・安全ですよ？

詰替用の台所洗剤として、安心・安全の洗剤として商品化も考えられます。

10. 野生生物と生物多様性

君津での現場見学での感想

折角の電気柵、手入れが行き届いてなく、放電して役に立っていないところ有り、高圧電線が碍子から外れている箇所も有り、電線を碍子に巻き付けただけの設置では外れ易いので、バインド線で留める必要があるのではないかと？

電気柵のメンテナンスを土地の電気工事士資格有者の家電屋さんに依頼しては如何でしょうか？

戦略グループ会議 報告書

〈戦略グループ会議の名称〉 ビオトープと生物多様性	〈参加人数〉 15名
〈主催グループ名〉 ビオトープと生物多様性戦略グループ	〈代表者名〉 佐野郷美
〈実行委員名〉 川北宏之、山田純稔、佐野郷美	〈共催(協力)団体名〉 千高教研生物分科会ビオトープ研究班
〈開催日時〉 2007年8月24日(火) 13:00～16:30	〈開催場所〉 千葉県立船橋芝山高等学校(船橋市)

〈会議で話し合われたテーマの概要〉
 船橋芝山高校のビオトープ「里山生態園『芝山湿地』」の見学、ビオトープの整備の意味、ビオトープの設置・維持管理上の問題点、生物多様性ちば県戦略への提言

各グループ会議からの提案

0. はじめに

①見学地である船橋芝山高校のビオトープの整備の様子、生物多様性の現状、授業での利用等についてスライドショーで確認し、現地見学をおこなった。

1. この会で生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか？

- ①特に学校ビオトープに絞って議論する中で、県内でも色々な学校でビオトープが整備されてきているが、多くの学校でビオトープの意義を理解し関心を持ってその整備や維持管理をおこなう管理職や担当教員が転勤すると、維持管理がうまくいかなくなったり授業で活用されなくなり、結局放置されて生物多様性が維持できなくなっているという現状である。したがって、学校ビオトープでは担当職員が転勤してもなお、ビオトープが維持されるような体制を何らかの形で作り上げることが求められている。地域の博物館、PTA(保護者)、地域のNPO・NGO等が関わっている例はごく希である。
- ②ビオトープを整備した初期段階では、遷移に従って生物層が大きく変化し、また谷のような生物が出現して、担当職員にとっても生徒にとっても楽しくビオトープに関わることができて、高いモチベーションを維持できるが、初期段階を過ぎると生物層は安定し変化が少なくなるために、ビオトープへの関心が低下する傾向が見られる。
- ③水辺のビオトープの場合、特に外来種のアメリカザリガニが進入すると、水草やトンボのヤゴなどが食害され、生物多様性が極端に低下することが多い。

2. 課題を解決するために何をすべきですか？

①学校ビオトープが恒常的に各学校で適切に維持管理され、教育活動に利用されると同時に、地域の生物多様性を維持する拠点としての機能ももてるよう、学校、教職員、行政、地域住民(NPO・NGO、シルバー人材など)が連携して関わられるような体制

をつくり出す。

②生物多様性が維持できなくなったビオトープについては、生物多様性の維持に配慮しつつ思い切って手を入れる。そういったことが必要になったビオトープにはそれなりの予算措置が講じられるようにする。

③アメリカザリガニが子ども達に魅力的な生物であることは十分に承知の上で、アメリカザリガニやウシガエルなどは徹底的に取り除く以外に生物多様性を維持する方法はない。

3. 誰が、どのように進めますか？（県民、事業者、行政等の役割）

①（仮称）千葉県生物多様性センターを中心に、全県に生物多様性ローカルステーションにおく。その際ビオトープのある高等学校がローカルステーションのもっとも好ましい場所とする（千葉県、千葉県教育委員会）。ローカルステーションの置かれた高校には「生物多様性担当主任教員（仮称）」を置き、授業面で一定の優遇措置を講じながら、自校のビオトープの管理や周辺小中学校のビオトープの維持管理についてアドバイスをおこなう。それと同時に、PTA、地域住民、NGO・NPO等との協働、ネットワーク化を進める。

千葉県や千葉県教育委員会は学校ビオトープの教育上の価値、地域の生物多様性を守り維持する拠点となることを理解し、学校ビオトープを学校施設の一部として多くの学校への設置を進める。また、ローカルステーションとなる「ビオトープ拠点校」を設置する。

生物多様性、自然環境、ビオトープ等に関する基本的な知識と維持管理能力を身につけ、さらに高いコミュニケーション能力に長けた教師を育て、ローカルステーションに配置する。

②、③については行政に予算措置を講じていただければ学校ごとに十分に実施できる。

4. 自由記述

・学校にビオトープがある限り、どんなにPTA、地域住民、NPO・NGOが協力的であっても、学校内にそれらの人材と上図にコミュニケーションを図りながら、ビオトープの管理とビオトープの質の向上に努めることのできる人材が必要である。

・具体例として船橋芝山高校で実現した学校ビオトープを維持発展させるためにおこなわれ、成功した人事異動の例を紹介する。

①芝山高校のビオトープを整備した2名の教師が人事異動で転勤することになった。

②人事に際してビオトープの維持管理をおこないながら、授業にも活用できる人材に来てもらえるように校長に願う。

③校長はその要請を理解するとともに、千葉県教育委員会にしかるべき人材の転入を要望した。

④その結果、自然再生や里山環境の復元に高い関心を持つ後任人事が決定した。

戦略グループ会議 報告書

<p><戦略グループ会議の名称> 都市の水辺の景観と生物多様性 まず、海老川に沿って歩いてみよう！</p>	<p><参加人数> 36人 現場散策(23人) 会議から(13人)</p>
<p><主催グループ名> 自然と文化研究会 the かもめ NPO 法人とんぼエコオフィス</p>	<p><代表者名> 佐藤聰子 藪内俊光</p>
<p><実行委員名> 自然と文化研究会(田原悦子・渡邊優子・今西由子)</p>	<p><共催> 千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性グループ <協力> 千葉県葛南地域整備センター 市川緑の市民フォーラム(佐野郷美) NPO 法人環境を考える市民の会</p>
<p><開催日時> 8月25日 13:00~17:30</p>	<p><開催場所> 船橋女性センター・研修室</p>
<p style="text-align: center;"><島正之氏の講演から></p> <p style="text-align: center;">14:50~15:50 「都市の水辺の景観と生物多様性」</p> <p style="text-align: center;">千葉工業大学准教授・建築都市環境学科(河川工学) 墨田川市民交流実行委員会：会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを分けて話され、水の循環をゆっくりする。海まで水が到達するのにゆっくり流れる仕掛けは流域にあったやりかたで考える。(川をコンクリートで固めてまっすぐにしていまうと生き物は滅びてしまう)これは、市民レベルで努力出来る事がある。バケツやドラム缶に雨水を貯め、雨水を土にしみ込ませ、ゆっくり川に流すことなども雨水の有効利用の一つです。 ・ 小さな川ほど水源が滅びやすいし、水源は川の命であり、また。湧き水も大事にする。一人一人の協力がトータルで生きて来る。 ・ 芦原の原風景を再現すれば魚も戻り、鳥もやってくる。川の生物多様性はどう水性植物を増やすことかで、虫や魚が棲み生物多様性が増えて来る。 ・ 水辺環境を楽しむ事が大事で人と人のネットワークを作って楽しみながら活動することが、楽しい水辺をつくることになる。小さい川ほど川の実在感を活かすことが大切。 ・ 隅田川ではハゼ釣り大会を楽しんでいるが、海老川ではテナガエビ釣り大会など観察を兼ねた取り組みなど。科学の目を育てる(市民科学)遊ぶことが大事である。キーワードは「学び」「遊ぶ」ことです。 ・ また、水辺に水性直物の菖蒲など根付かせれば川に色彩が加わり人々も楽しめて川沿いの散策により、人があつまる。水辺を地域の人のネットワークの場としての水辺を作れば生きた博物館にもなる。(隅田川市民交流実行委員会の20年以上の活動からのメッセージでした) 	

戦略グループ会議 報告書

<現場で観察したこと会議で話し合ったテーマの概要>

<現場観察から>13:00~14:30(快晴)

炎天下を船橋の市内に流れる海老川に沿って散策する。

- ① 都市の水辺の動植物は・・・ギンヤンマ、ミヤマアカネ、カルガモ、白色セキレイ、セミ、カメ、コイ、ボラ、沿岸には、アシ、ヒメガマ、アレチウリ、ヤブガラシ、ジュズダマ、クズ、水草(オオオカナダモ、ヤナギモ)また、コイの放流は3年前から中止している。何故なら、コイのおしっこのアンモニアが川を汚すことが科学的に分かって来た事から。(藪内氏)

飯山満川の合流地点(八栄橋)から折りがえして、講演会場:女性センターに向かう。ここまでが、千葉県葛南地域流域センターの管轄地域とのことでした。海老川に注ぐ、前原川、念田川、飯山満川などの13の支流(船橋市管轄)の散策は次回の計画にします。

生活排水の多い飯山満川には、外来種のカメが多く観られた。

下水道の普及が35%と遅れていることが原因で、川面に泡と汚濁が見られる箇所がある。

- ② 都市の水辺の景観・・・桜並木が大きな木陰を作り炎天下の散策に、快い風と川面のかすかな水音が交差していた。表面にも汚濁が見られたが、長年の努力で、生き物も少しずつもどり、アシや水草が増えている箇所は水の流れと、透明感が少しずつもどっているようでした。

* 橋桁に広告看板が無造作にくくりつけてあるのは、景観を壊している。

* 散歩する人、マラソンする人、海老川が人々の集まる所となりつつある。

- ③ 河川と水循環、護岸は?・・・支流(街に近づくに従って)水の流れは鈍く、汚濁が見られる。護岸もコンクリートで固められている状態だった。緑の中洲などを作る努力はされていた。

- ③ よいところは?・・・川の両岸に草が茂り、中洲にアシや草の茂る緑地帯にカルガモや白色セキレイなどが草の木陰で休息している様子が見られホッとした。

<報告と話し合い>16:00~17:00(17:30まで延長)

* 千葉県葛南地域整備センターの担:山口浩氏

「海老側流域水循環再生推進協議会」で発行しているパンフにそっての説明と千葉県の実施計画を聞く。(パンフは参加者に配布)

パンフのタイトル「海老川のことを知っていますか?」このパンフを使って、地域の小学校へ出前授業をしている。

「まちの水のながれ」を自然の水の流れに戻すことをどうしたらできるか?など、こどもたちと考えあう授業をしている。雨水が土を通うて本来の自然の水循環に戻すには、雨水浸透枳の事などを子ども達と考え合うことをしている。

各家庭に雨水を貯めることや下水処理浄化槽の役割、単独浄化槽から合併浄化槽の事など。

現在は、水循環を自然の水循環にもどす努力をしている。

戦略グループ会議 報告書

* NPO 法人環境を考える市民の会・代表：多田長夫氏

昭和 54 年頃から船橋市は前原団地を始め次々に団地が出来てくると、保水力のある森や田圃がなくなり台風になると海老川が反乱し、家屋への浸水が頻繁になった。そこで、海老川水害対策協議会が発足し、現在は NPO 法人環境を考える市民の会に発展する。

「船橋海老川親水市民まつり」「船橋海老川・長津川福像巡り」などのイベントを 20 年続けて来た。行政と市民の交流がないとやって行けない。今後も水辺を楽しむ！船橋市の観光も含めて考えて行きたい。10 月 7 日（日）恒例の「船橋海老川親水市民まつり」「船橋海老川・長津川福像巡り」を計画している。

* 市川緑の市民フォーラム：事務局長・佐野郷美氏

勤務校、県立船橋芝山高校は、裏山と湧き水を活かしたビオトープを作っている（先代の教諭が作って育てて来た所を引き継いでいる）田圃や、小流れを作るとトンボやカワニナ、サワガニ、ホタルも見られる水辺の原風景が再現されている。雨水を貯めるタンクも学校で設置し、ビオトープに水を送っている。生徒と共に管理している。

海老川の川の流れて言えば、上流、中下流に自然の川岸の復元が大事である。それは、生物多様性の回復につながる。

淡水と海水の混ざる汽水域の役割と三番瀬の現状を説明し、豊かな生態系を持つ三番瀬の海域をこれ以上狭めないことが非常に大事である。

三番瀬の干潟を埋め立てた所は、生物豊かな干潟だった。今後、海域を狭めないことと出来るだけ復元して、後背湿地としての葦原の復元もめざしたい。それは、三番瀬の生物多様性の復活と東京湾の漁業資源が、かつてのように豊かになることにつながる。

* NPO 法人とんぼエコオフィス：代表・藪内俊光氏

海老川の流れの中に水草を茂らせ水草の森を作るなど川の浄化の実験を続けている。生きものが徐々にもどってきている。オオカナダモは外来種で根がないので水の中を漂いながら光合成をして川に酸素を供給し、生き物の餌になり、貝や魚の産卵場所を提供するなどの利点もある。また、土砂を周囲にとどめる役目をして在来種のヤナギモの着底を助けている。現在はオオカナダモを川に入れる作戦「ポイポイ作戦」を展開し、実験している。

次回は上流、源流を案内したい。

1・各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。

・市民が科学の目をもつて水辺を楽しむ。

保全・再生のためには、川辺や干潟は生きた博物館（講演の話から）として人と人のネットワークづくりに役立てる。このことによって生物多様性をより意識することにつながる。

・市民が水辺にシフト散策する機会を増やす宣伝をする。

・水循環を理解する学習が必要。

戦略グループ会議 報告書

2・誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政等の役割)

県民——が出来る事

- *川辺や干潟を散策し、動植物を観る機会を増やす。
- *水中に生き物が観られる水草の森を作ろう。
- *水辺を楽しむ仕掛けをつくる。
- *人と人のネットワークをつくる。

事業者——

- *生物多様性の守ることの重要性を理解する。
- *県民の意見を聞く機会をつくる。
- *緑地帯、森林の大切さを理解して欲しい。
- *宅地開発は水循環や森林の大切さを理解して欲しいしこれ以上緑を破壊しないで欲しい。

県——

- *環境整備担当課には、森を作る、守る都市計画を練って欲しい。
 - *水源、湧き水を守って欲しい。
 - *緑地の保全をして欲しい。条例を作って欲しい。
 - *コンクリート護岸や矢板護岸を土手に戻す(出来る所から徐々に)生物多様性を復活させることになる。
 - *川岸ロードの数カ所に踊り場空間を作り湧き水を利用した原風景の水辺の再現をして欲しい。
 - *景観条例を活かして欲しい。
 - *河川整備の一環として市の浄化槽普及にも働きかけて欲しい。
 - *都市の中の森林を増やして欲しい。
 - *現在ある田圃や緑地帯をこれ以上減らさないことを各市町に働きかけて欲しい。
 - *地球温暖化の危機を考えると、各市町村の宅地開発などに、生物多様性を考えての開発計画を充分検討して欲しい。
- 地球温暖化から守る為にも開発で水辺や海をこれ以上狭めない。むしろ、水辺や湿地を復元し、暗渠を開渠にして生物多様性の復活をする。

自由記述——

*現地散策から基調講演を聞き、それぞれの活動の報告をしてもらい、真昼の炎天下を歩くのはきつかったが(熱中病を心配したが、みんな元気に女性センターにたどり着いた。)

講演や報告を聞いても、現地を共に見ているので、共通に想像でき、話がより理解しやすかったと思う。

葛南地域調整センターの担当者：山口さんも一緒に歩いてよかったと感想をくれました。

戦略グループ会議 報告書

- * 船橋市漁協の漁師さんが出席出来なかったのは残念でしたが、文章を寄せてもらい配布する。
- * 地元の船橋市の河川整備課にも御誘いしましたが、今回はご都合がつかないということでした。会場から、船橋市は下水道の整備が35%と悪く、市川市は64.4% 習志野市、千葉市など80%~90%なのに何故か？流域下水道方式を取っているから遅れているのではないかの質問があったが、流域下水道については、船橋市の管轄ということで次回ということになった。船橋市も近く54.2%まで普及するということでした。そうすれば川の流れも少しきれいになる。
- * 次回は秋に船橋市管轄の支流と源流を散策してみたい。船橋市の川は八つ手の葉脈のように支流が広がり海老川に集まって、三番瀬へ注いでいる。
- * 海老川や三番瀬の歴史を学ぶ機会も持ちたい。
- * 市民として上下水道の学習会も持ちたい*他の河川の観察散策会も計画したい。

<p><戦略グループ会議の名称> 農地が変わる、皆で聞こう、農地は？農業は？</p>	<p><参加人数> 32人</p>
<p><主催グループ名> 残土・産廃問題ネットワーク・ちば</p>	<p><代表者名> 藤原 寿和</p>
<p><実行委員名> 井村 弘子</p>	<p><共催（協力）団体名></p>
<p><開催日時> 平成19年8月25日</p>	<p><開催場所> 千葉市民文化センター</p>
<p><会議で話し合われたテーマの概要> 今、千葉県では、農地が代わってきている。100年前から続いていた農地が道路になったり、宅地になったり目の前の環境が変わり、生物の危機が訪れている。日本生態系協会の事務局長関健志氏を講師として招き、各国の実情を聞き日本の産業経済が生物を押しやり変えていく。狼や大鷹を追いやりその結果、鳥が増え、猪が出没する。それとともに私共の生活も便利にはなったかもしれないが温暖化は進みエネルギーが転換していく。豊かさが人の命の軽さにつながっていく。持続的な社会、持続的な地球、環境を計る物差しが生物多様性であるということをもこの省庁でも言うようになってきた。創ることがゴミにつながる現状である。日本の借金800兆円国民一人一人がになっているわけだ。工業は自動車工業でも他工業でも原料を輸入し、製品を輸出。先ずバランスはとれているが問題は農業である。輸入品が安いということ。経済的には勝ち目がない。又農薬の使用量が世界一である。安全な農薬と農水省は言うが農薬会社は天下りが多く優勢である。ここ数年、ゴミ問題も7億トンを入力し1億トンより出していないとなるとゴミはたまる一方である。国土を守る、生態系を守ることは今各省庁が言っているが、農家が自分の土地の10分の1を自然に戻す。その生産性が落ちた分を国が払う。92年来アメリカ、ヨーロッパはやっている。しかし日本は拒んできた。なぜか、農地をどんどん都市化してきたからだ。30年間3万ha自然を壊し農地を作ったが、毎年6万ha農地を壊し都市化した。つまり3万ha農地が減ってきている。しかし3万ha自然を壊し農地を作って圃場整備して大型農道を入れ、区画ができた農地は有料農地だから農業を続けなくてはいけない。8年経てば転用できるというが続けられる農家がどのくらいいるか。土地改良法、農業基本法95年、又環境法あるが何も変わらない。生物多様性、生態系の保存、種の保存をしっかりと考えに入れて日本の農業をどう守っていくか、これはもう日本の存続にかかわる問題である。</p>	

各グループ会議からの提案

1. 各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。

●国は800兆の借金をつくったが、国民は何も幸せになっていない。農家に対して何をしてくれるのか、何もしていないではないか。有機農業への努力をしよう
と県は画策中のようだが、一方では農薬の空散問題、又遺伝子組み替え技術の推進、そして森を払い山砂を取る、どれも生物の多様性とは逆の方向ではないか。県の予算は何に使われるのか、県民ももっと関心を持つようにしよう。

●環境保全のための予算は一向に変わらないようであるが、自動車道路税とかCO2環境税とか、環境を守るための収支を生物多様性を基本において生態系の中の一つである県民をまもるための政策を県は考えるべきである。

●千葉県が有機農業を推進するならばそれに予算を使う。土地の評価、商品の評価、緑を残す対策このような自然保護対策に予算をつかう。自然環境を持続していくための政策をくみ、若者をふるさとに呼ぶ。

●有機200円輸入品100円とすると多くの人は輸入品を買うだろう。

輸入のものに農薬とか除草剤とかの表示をつけ、国民に農薬についての関心を啓発していく。農薬についての智識も行き渡り、有機農業も推進していこう。

●不耕起栽培も農家と産直というものではなく制度を作り広めていく。

2. 課題を解決するために、何をすべきですか。

県がやっていることはたとえ主張がそうであっても、生物多様性生態系保持とは逆方向である。課題を県民に訴え、県民とともに生態系保持を学者、専門家を入れ、政策の建て直しを計るべきではないか。山砂を羽田に持って行くために如何して森を切らなければならないのか。地球温暖化を救っていくのも森の機能ではないだろうか。跡地に苗木を植えるというが、苗木が元の状態になるのには何十年とかかるということは十分に行政は考えていることだろう。切らなければよい。山砂などを持っていくことはまかりならぬ。

県民はみなそう言っている。何が子どもたちのために残せるのか、それは持続可能な自然である。千葉県は三方を海に囲まれ、温暖な 住みよい恵まれたところである。しかし、行政がその地を勝手に時の利に任せて先の見えないものにしてきてしまった。今こそそれを取り返すときである。このまま環境破壊を続けていけば、県の生態は変わっていくことを行政は恐れないのか。生物多様性など主張できないはずである。千葉県はこのままでは、奈落のそこに沈んでしまう。

都市の中の森、海辺に続く森を夢見て、美しい生態系作りを考えていこう。

3 誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政の役割)

県民：農地を保全し、農民との交流を大切にしていくことに努力しよう。

事業者：千葉県の未来を県民とともに自然豊かな土地にするために他県の迷惑物質などを持ち込んだりしないで千葉県の永遠の発展を考えて行動すること。

行政：上記2で県に訴えたいことを私たちの気持ちとして書きました。県は千葉県民に大きな希望をもたせるように今から生物多様性を根本にした農地、農業の未来を責任を持って考えていかななくてはならないと思う。それは、千葉県は農業県として発達してきたからである。それが今失せかけようとしていることに危機を感ずるからである。

自由記述

戦略グループ会議 報告書

<p><戦略グループ会議の名称> 農薬空散を止めさせよう！</p>	<p><参加人数> 19人</p>
<p><主催グループ名> 農薬空中散布反対千葉県ネットワーク</p>	<p><代表者名> 井村弘子</p>
<p><実行委員名> 半沢勝男、植田 博</p>	<p><共催（協力）団体名> 子ども健康ネット</p>
<p><開催日時> 8月26日</p>	<p><開催場所> 千葉市生涯学習センター</p>

<会議で話し合われたテーマの概要>

1) 空中散布の歴史: 1950年代から新たな農業技術として開発された。1962年に農水省の指導のもとに(社)農林水産航空協会が設立、国からの補助金が1億円、農林水産航空事業促進要項(通達)、65年に同実施要領(通知)が出された。法律と同様の規制力をもって実施される。

1977年には「松くい虫被害対策特別措置法」が制定されて空中散布が始まった。この流れに対して2000年9月、反農薬東京グループ等で「有機農業の圃場への空中散布農薬飛散」について交渉を行い「有機農業ほ場に配慮する、防除対象以外の農作物への損害が生じないための措置の徹底をを実施させた。

2007年有人ヘリ散布予定面積、全国で105,952ha(前年189,614ha)、11道県、関東では千葉13ha、茨城11千haの2件です。千葉県は農薬散布に鈍感な対応をしている。

2) 無人ヘリ散布: 1991年に「無人ヘリコプター利用技術者指導指針」を出して推進。無人ヘリ散布を「空中散布」と呼び空中散布と地上散布の中間に位置付けた。全国で水田2006年万ha、千葉県1.7万haは栃木3.8万haについて首都圏で2位です。東京、神奈川は無人ヘリ散布をしていない。2005年にり揖屋町は「運用基準」を強引に作成して無人ヘリに補助金。<無人ヘリ散布の問題点。イ) 運搬能力がないから高濃度(100倍以上)の散布になる。

ロ) 「無人ヘリ利用技術指針」には周辺住民への周知義務が書かれていない(有人ヘリ、通知「住宅地等への散布」には周知義務)。ハ) 住宅地周辺散布し、飛散調査もない。

3) 農薬飛散被害者からの報告

イ) 柏市の住民: 団地周辺で農薬が撒かれ家族が化学物質過敏症で苦しんでいる。予告なしに散布されて逃げようがない。事前に予告してくれるように住民の集会を何度も開催して申し入れた。最近ようやく連絡、それも前夜に電話で「明日」という連絡があるだけです。もう一人住宅地の周りの「かぶ畑」に一日おきに散布される。雨戸を閉め切りの生活、子どもは寝たきりで起き上がれない。ロ) 岬町で登校途中の小中学生が有人ヘリの農薬散布を受けた。毎日新聞が取り上げ「千葉県」が指導に入った。2004年県南地区アンケート調査で、通学路散布除外3ヶ所、散布する17ヶ所中で早朝3ヶ所、夏期休暇日等の9ヶ所、通学路を「除外しないで散布」が5ヶ所と回答。多くは登校時間直前まで散布。「通学路除外」の意味をまったく理解していない悲惨な状況にあります。

4) 行政の対応

担当者は2年ほどで入れ替わり、農薬空中散布の実情を理解し、問題を解決しようとする態度が見られない。

各グループ会議からの提案

各グループにとって今後何をなすべきか

1. 各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。

- ◇ 農水省が登録農薬を「適正に使用」すれば安全だと指導、しかし、農薬を散布する農業者は「登録農薬」だから安全、補助金が付くから安くできる。集団でやることだから付き合いで同意する。少しでもカメムシ害を避けて等級を上げて金にしたいしか見えない。生産者の同意を主張しているにすぎないのか。
- ◇ また、千葉県は国の「ガイドライン」を受けて書類上の指導を行い、実施団体は忠実に実施していると行政担当者が答えている。しかし、空散ネットが農薬空散の実情を明らかにすることを求めた県への質問書の回答には肝心の具体的なデータは記載されていない。
また、農薬の危険性は国が認めた「登録農薬」だから問題ないとしか答えていない。登録された農薬でも「ガイドライン」に定める「条件を満たす散布」であるという前提条件があることを理解していない。
- ◇ 農薬散布はあらゆる農産物に行われている。農住混在の近郊農業では人が生活する住宅の窓際まで農薬が撒かれる。さらに、農薬による被害には個人差があることを理解できずに無神経に散布を続ける農家が被害を広げている。農家にとっては高く売れる農産物を作って収益を上げようとするのは当然である。この対立を解消する方策が必要である。
- ◇ 千葉県庁内の研修会で使用されたテキストに「農業生産」が大量生産化して「生態系の単純化」が進み、「多様性が喪失」した。この「人類が改造した農業生態系」が天敵をも排除したために農薬が欠かせなくなった。農薬＝毒だから最低限の使用にとどめるべきだ。また、殺虫剤抵抗性の発達に驚くべき速さで進んでいると警告している。このことに留意すべきである。

2. 課題を解決するために、何をすべきですか。

- ◇ 農薬散布の地域協議会は利害関係者によって構成されている。要望すれば地域の自治会などが入れないわけではないが、農村の地域社会では自己主張は困難である。県レベル協議会に農薬に取り組む市民グループなどを参加させるべきである。
- ◇ これまでに植物防疫や行政に情報公開を求めてきたがまともな情報が示されなかった。利害関係者だけでなく県民すべてに情報を公開すべきである。
- ◇ 食料の安全と量的確保のために日本の農業をどう維持すべきかを示し、理解を求める。
- ◇ 日本の農業生産方式が生態系を破壊した。それを復元することが有機農業の課題である。生物多様性はその基本的な理念を示すものである。有機農業と地球温暖化防止は地球の自然循環を守る役割を果たすものである。

3. 誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政等の役割)

- ◇ 有人・無人ヘリの空中散布は廃止する。住宅周辺の農地は管理して貸し菜園とする。

戦略グループ会議 報告書

- ◇ すべての農産物に使用した化学肥料と農薬の表示を義務付ける。
- ◇ 市場に乗らない「見切り農産物だけの安売り市場」を毎週土曜日に開設する。
- ◇ 千葉県リードで3ヶ月に一度公開の審議会(農業者、農協、消費者、環境活動家、行政など参加)を開催する。植物防疫業界は除外する。
- ◇ 千葉県として農業が生業として維持できる施策を講じる。消費者を政策策定に参加させる。
- ◇ 農薬被害者への救済施策を講じる(農薬散布規制、医療補助など)。

4. 自由記述

※1枚で収まらない場合は、2枚になってもかまいません。